

はにい いのちの水がめ

平成30年6月28日

「ユニセフってなあに？」と子どもたち
「ユニセフは守っているんだよ。次のうち
どれを守っているのでしょうか？」
「①パンダ ②子ども ③おじいちゃん」
「2番の子ども!!」元気に答える。
「正解！ 子どもを守っているの。」
「このマークには、すべての子どもたちが
健康に育って、よりよい世界をつくる力に
なっていてほしいという願いがこめられ
ているの。」ユニセフキャラバンのスタッフの心のこもった説明が続く。



「さて、この写真の子は水を運んでいます。なぜ運んでいるかわかりますか。」
「なんでだろう？」「水道がないのかな？」思い思いの言葉をつぶやく。
「この地域では、自分たちで遠くにあるわき水を汲んでこなければいけません。それに、
どんなに濁っていてもそのお水を飲むしかないのです。」「ええー！」思わず顔を見合わせる。
「今日は、みんなにも実際に運んでもらおうと思います。」



「ほんとに？ できるかなあ？」
クラスの代表の児童が、スタッフや先生に支えられながら、やっとのことで重い水がめを持ち上げる。一生懸命に運ぶ姿に、他の児童たちから「がんばって！」と声がかかる。
「家まで持って帰れそうかな？」
水がめを運んだ児童は、黙って首を横に振った。

「この地域の子どもたちは、何時間もかけて水を運びます。」「水汲みは女の子たちの仕事で、このために学校に通えない子どももいるのです。」スタッフの方がゆっくりと語る。
「私たちは募金以外に何ができるの？」という子どもたちの問いにスタッフは笑顔で答えた。
「今日のお話をたくさんの人に伝えてくださいね。」

『はにい』はコミュニケーションツールです。 みんなで語り合しましょう。

ご意見・ご感想は → inochi4027@pref.kanagawa.jp